

10月1日は「浄化槽の日」

知っていますか？ 浄化槽設置者の3大義務

皆さんの大切な財産である浄化槽を適切に維持管理し、末永く使い続けていけるよう「浄化槽法」によって浄化槽設置者の義務が定められています。

● 保守点検

浄化槽の処理機能を維持させるために年数回、保守点検を行うことが義務づけられています（一般家庭では年3回以上行うことが義務づけられています）。

保守点検には専門的な知識や器具を要することから、県知事の登録を受けた専門業者に委託してください。

● 清掃

浄化槽内にたまったスラム（汚物）や汚泥などを取り除き、処理機能を回復させるために、年1回以上、清掃を行うことが義務づけられています。

清掃は、市町村の許可を受けた浄化槽清掃業者に委託してください。

● 法定検査

浄化槽の処理機能や設置状況が適正かを確認するために、浄化槽設置者は、法定検査を受ける義務があります。

検査には浄化槽の使用を始めてから3～8カ月の間の「初めての検査」以降は、1年に1回受ける定期検査があります。

問 生活環境安全課 ☎945-4688



※保守点検・清掃・法定検査は町の許可を受けた業者・検査協会に委託しましょう。詳しくはお問い合わせください。

東浜電光掲示板

広告募集

与那原町では、東浜電光掲示板への有料の企業広告を募集しています。

企業様の会社紹介や製品の紹介、PRなどについて、動画や画像の掲載による周知に利用しませんか。



<https://www.town.yonabaru.okinawa.jp//soshiki/2/3804.html>

◀ 申し込み方法や広告掲載料など詳細については、町ホームページにてご確認ください。左記二次元コードからもアクセスできます。

問 総務課 ☎945-2201



フードドライブにご協力ください

「フードドライブ」とは、ご家庭で余っている食品をご寄付いただき、それを必要としている方に提供する「食のボランティア」です。食べきれず、ご家庭で眠っている食品はありませんか？ぜひご協力をお願いします。

ご寄付いただきたい食品

●お米 ●乾麺 ●レトルト食品 ●缶詰類 ●調味料類 など

受付窓口 与那原町社会福祉協議会

受付日時 月～金 8:30～17:00 年末年始・祝日を除く

※賞味期限が3カ月以上あり未開封で常温保存が可能な食品をお願いします。

問 社会福祉協議会 ☎945-3016



石巻市防災士協議会会長

井上達彦氏が防災講話

町民による町民のための防災

8月24日、消防庁「防災意識向上プロジェクト」の一環として防災講話を開催しました。講師に石巻市防災士協議会会長の井上達彦氏を迎え、東日本大震災での実体験やその後の活動から得た教訓をもとに、日頃の備えや地域で支え合うことの大切さについてお話しいたしました。



講師の井上達彦氏＝8月24日、上の森かなちホール



井上氏は東日本大震災発生時、石巻市にあった自宅の1階が水没する被害に遭われました。当時は津波の危険性を

一人ひとりが備え
地域で助け合う防災

十分に意識できず自宅へ戻ってしまい、命の危険に直面した経験から、「災害時に大切なのは迷わず避難すること。自分の命は自分で守る意識を日頃から持つてほしい」と呼びかけ、備えの重要性を説きました。

講話では、大規模災害時には行政支援だけでは限界があるとして自主防災の姿勢が不可欠であることを伝えられました。震災後、石巻市は防災士が活動する組織を立ち上げ、地域や学校と連携し、避難所開設や防災教室といった活動を続けています。

「避難訓練は失敗してもいい。失敗を見つけ、次に生かせばいい」と話し、昼夜など多様な状況を想定した訓練や、避難所の開設・運営を体験することの重要性を説きました。

また、防災において「自助7割、共助2割、公助1割」と捉えることの大切さについても

自主防災組織連絡協議会の総会を開催



防災講話と同日、上の森かなちホールにおいて、与那原町自主防災組織連絡協議会（よなばる防災ネットワーク）の総会が開催されました。

総会では、役員の選出が行われ、会長に奥原崇也さん（東浜自治会自主防災会）、副会長に仲村優香さん（上与那原区自主防災会）が選出されました。

また、今年度の活動計画や会則の改正案について協議したほか、各地区の自主防災活動について課題や取り組みなどを共有し、意見を交わしました。

今後は、各地区の自主防災組織が連携し、情報交換や研修、実践的な訓練などを通し、地域全体の防災力向上と、災害時に支え合える体制づくりを進めていきます。



説明。まずは自分の命を守り、その上で周囲の人を助け、行政による支援につなげるという考え方です。そのほか、事前の備えとして、家具の転倒防止や避難経路の確認、食料・携帯トイレの備蓄などを例に挙げ、「自分でできる備えは多

くある」と呼びかけました。災害はいつ起こるか分かりません。まずはご家庭でできる「自助」を進めるとともに、地域で支え合う「共助」について、ご家族や近隣の皆さんと考えてみましょう。